慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　１回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（33353）1211（大代表）

# 第114回医師国家試験

令和２年２月８日、９日に実施された第114回医師国家試験の合格発表が、３月16日に厚生労働省より行われた。

第114回医師国家試験の受験者総数は10、140人、合格者は9、341人で全体の合格率は92・1％（昨年89・0％）であり、昨年より3・1％増加した。

合格基準は、①必修問題158点以上／197点、②一般および臨床実地問題72・6％（217点以上／299点、昨年は70・6％）③禁忌肢3問以下であった。

今年の問題を見ても、臨床重視が進んでいる。特に、臨床実習できちんと臨床現場を見ているかを問われる問題が多くなり、その傾向は定着している。今回は、標準的な問題が多く、難易度は低下し、一般および臨床実地問題の合格基準は70・6％から72・6％へと上昇した。

慶應義塾大学の現役生は107名のうち、106名が合格、1名が不合格であった（合格率99・1％）。既卒生は9名の内8名が受験し、4名が合格、4名が不合格であった（合格率50％）。慶應義塾の学生達は、「全員合格」を合い言葉に、模擬試験で成績が悪かった学生に、良かった学生がマンツーマンでついて、学年全員で勉強してきた。今回、残念ながら、1名の学生が医師国家試験をパスできなかった。

医師国家試験は知識を問う試験であり、技能や態度は各大学で卒業時にPostCC-OSCE（臨床実習終了後OSCE）で確認することが全国の大学で進められている。2020年度からは全医学部で正式実施される予定である。

（医学教育統轄センター　門川俊明　70回）

**第114回医師国家試験の新卒の合格者数**

| 順位 | 大学名 | 合格率(%) | 合格者数/受験者数 |
|---|---|---|---|
| 1 | 自治医科大学 | 100.0% | 119/119 |
| 1 | 東京医科歯科大学医学部 | 100.0% | 107/107 |
| 1 | 福井大学医学部 | 100.0% | 106/106 |
| 1 | 北海道大学医学部 | 100.0% | 105/105 |
| 1 | 大阪医科大学 | 100.0% | 99/99 |
| 1 | 和歌山県立医科大学 | 100.0% | 97/97 |
| 1 | 産業医科大学 | 100.0% | 90/90 |
| 8 | 順天堂大学医学部 | 99.2% | 125/126 |
| 9 | 埼玉医科大学 | 99.2% | 124/125 |
| 10 | 秋田大学医学部 | 99.2% | 118/119 |
| 11 | 日本大学医学部 | 99.1% | 113/114 |
| 12 | 鹿児島大学医学部 | 99.1% | 110/111 |
| 13 | 岐阜大学医学部 | 99.1% | 107/108 |
| 14 | 慶應義塾大学医学部 | 99.1% | 106/107 |

**慶應義塾大学の医師国家試験の新卒合格者数推移**

| 年次 | | 新卒合格者数 | 新卒合格率 |
|---|---|---|---|
| 2020年 | 第114回 | 106/107 | 99.10% |
| 2019年 | 第113回 | 107/111 | 96.70% |
| 2018年 | 第112回 | 110/110 | 100% |
| 2017年 | 第111回 | 107/110 | 97.30% |
| 2016年 | 第110回 | 105/108 | 97.20% |
| 2015年 | 第109回 | 108/108 | 100% |
| 2014年 | 第108回 | 101/103 | 98.10% |
| 2013年 | 第107回 | 95/97 | 97.90% |
| 2012年 | 第106回 | 98/98 | 100% |
| 2011年 | 第105回 | 96/97 | 99.00% |

令和元年度

# 准教授講師会総会・懇親会開催

会長　末岡　浩（59回）

信濃町における働き手の中心でもある准教授・講師の方々の相互理解を深める会として准教授講師会（准講会）が長年活動を続けている。本年度の総会が、2月25日火曜日に総合医科学研究棟1階ラウンジで開催された。

中国武漢市に端を発する新型コロナウイルスの感染症拡大を懸念し、全員マスクの着用を義務づけ、入室はアルコール手消毒を必須とし、懇親会における立食パーティーは急遽中止になった。

現会員数は、148名（准教授63名、講師85名）で、うち新入会員数は、13名である。長年会長を務めさせていただいた小生も2020年3月を以て慶應義塾を退職することになり、これまでの会員の皆様への感謝とこれまでの活動や今後の発展への期待を含め挨拶をさせていただいた。新役員には選挙で、会長に谷川瑛子先生が選出され、幹事には吉村公雄、北郷　実、飛彈麻里子、村松太郎の各先生が選出された。その他、2名の幹事について、規則により新会長が選任することとなる。

引き続いて開催された懇親会では冒頭に、天谷雅行医学部長から新たな医学部の変革の活動を含めたご紹介がなされ、向後の100年に向けて支える力となる准講会の会員に対してメッセージをいただいた。北川雄光病院長から新病院棟建設からAIホスピタルへの展開、そして、感染症棟の開設、ゲノム医療への展開について熱く語られた。

日頃、自身の分野外の有意義な話を第一線で活躍されているメンバーから伺うミニレクチャーでは、消化器内科の中本伸宏准教授から腸内細菌と肝疾患の話をいただいた。わかり易く研究成果と実臨床に結びつく先端医療の話は興味の的となり、多くの質問が投げかけられた。もう一つのシリーズ講演の企画は解剖学の今西宣晶准教授からクリニカルアナトミーラボの話を伺う予定であったが、朝からの発熱に見舞われ、残念ながら今回の肺炎騒動の関係から次回講演の予定へ変更された。今年は会食の機会が失われたが、本会がこれからの信濃町を支える裾の広い優秀な人材の宝庫であることを再確認する機会でもあった。

ミニレクチャー講演者の内科学（消化器）中本伸宏准教授

# 99回生の卒業式・謝恩会は中止

2019年度大学学部卒業式は、新装なった日吉の記念館で2020年3月23日に挙行される予定であったが、慶應義塾大学は、新型コロナウイルスの感染状況をふまえ、中止した。式典に代わり、卒業生・修了生に向けての塾長式辞、塾員代表祝辞等、予定されていた式典の一部を動画配信した。同日にリッツカールトンホテルでおこなわれる予定であった医学部99回生の謝恩会も中止となった。

また、4月1日に挙行を予定していた2020年度大学学部入学式は延期となった。本原稿執筆時点（2020年3月18日）では、4月13日からオリエンテーション、30日から授業開始を予定している。

医学部では、3月初旬において、講義はすべて終了していたが、4年生と5年生の臨床実習がおこなわれていた。3月2日より学外施設での臨床実習は中止とした。一方で、慶應義塾大学病院での臨床実習は、感染対策を十分した上で、継続をしている。4月以降の講義・実習について、本原稿執筆時点（2020年3月18日）では、医学部の日吉キャンパスでの講義は4月30日からとし、信濃町キャンパスでの講義・実習は通常通り、感染対策を十分した上で、実施する予定である。

慶應義塾大学医学部三四会発足百年〈上〉

# 三四会発足頃の信濃町

三四会長　武田　純三（52回）

慶應義塾大学医学部三四会は、1920年（大正9年）1月29日に発足した。北里柴三郎先生を招いて三田の食堂で発足式が挙行された。三四会は、2020年（令和2年）に百周年を迎え、北里先生の命日にあたる6月13日に、三四会評議員会終了後に『三四会百年記念式典・講演会、祝賀懇親会』を予定している。

新型コロナウイルスの勃発で始まった2020年は、東京オリンピック・パラリンピックが計画されている。その象徴となる新国立競技場のある神宮外苑は、かつては青山練兵場であった。現在信濃町駅を通っているJR線は、かつては甲武鉄道として、1889年（明治22年）に新宿―八王子間が、1894年（明治27年）に新宿―牛込間が開業している。千駄ヶ谷駅と信濃町駅の間の線路の南には青山練兵場があり、青山軍用停車場が1894（明治27）年9月から1896年（明治29年）まで置かれた。信濃町駅を通っていた都電の前身は、1906年（明治39年）3月に東京電気鉄道　外濠線として、信濃町―青山一丁目間で開業している。1969年（昭和44年）10月に廃止となっている。

青山練兵場は、下屋敷や御家人の屋敷、御焔硝蔵や御鉄炮場、寺院・町家を、陸軍省が1887年（明治20年）にまとめて買い上げ、日比谷練兵場に代わるものとして設けられた。その後練兵場は代々木に移されることになった。明治天皇崩御後に、明治神宮外苑造営計画が立てられた。競技場の工事は1919年（大正8年）12月に着工したが、関東大震災や物価高騰の影響を受けて、竣工したのが1924年（大正13年）10月であった。外苑が現在の形に出来上がったのは、1926年（大正15年）頃である。

線路の北側は陸軍の所轄地で、輜重兵（しちょうへい）営や兵器工廠（こうしょう）倉庫があった。1917年（大正6年）11月28日に東京府知事との間で払い下げの契約が調印され、全ての登記が完了したのが1919年（大正8年）12月11日である。信濃町キャンパスには軍の所轄地であった証の境界石が、外苑東通りに面して北に位置する東門の民音文化センターとの境に、『陸軍省所轄地』と二行で記されて残っている。青山練兵場と軍用地を結ぶために、線路をまたいで北の倉庫と南の練兵場をつなぐ橋がかけられていた。現在その一つが無名橋の名で残されている。

本科の教室の工事は1918年（大正7年）8月に着工し、西校舎が1919年（大正8年）3月に竣工した。始業式が1919年（大正8年）4月16日に行われたので、校舎が出来たのは授業が始まる直前であった。病院は1920年（大正9年）10月末に完成し、医学部開校・大学病院開院式が、11月6日に行われた。

当時は信濃町では、線路を挟んで北と南で、同時に大プロジェクトが行われていたことになる。しかし、甲武鉄道信濃町駅や東京電気鉄道信濃町駅が出来ていたとはいえ、医学部学生が生活を送るのに適していたとは言えなさそうである。信濃町の通りには食堂が無く、弁当を持参するか左門町まで出かける必要があった。このような環境の中で、三四会が発足した。会の目的は、『会員相互の交誼を厚くし、心身の強健をはかる』ことと、総務部、文芸部、運動部の三部が置かれた。会長には医学部長が、副会長には予科主任が就き、3名の部長には医学部教授より推挙した。三四会では、食堂経営改善が検討され、雑貨部と書籍部が置かれ、1926年（大正15年）9月に竣工した三四会館には、1階には食堂、雑貨部、書籍部が、2階には会議室、図書室、三四会事務室、各倶楽部ルームが作られた。雑貨部は宮田商店として、書籍部は仁誠堂として2010年頃まで販売を続け、信濃町に店が無かった時代に学生を支えてくれた有難い存在であったと思われる。

画像@2020 Digital Earth Technology、The Geoinformation Group、地図データ@2020 Google Map

明示40年の古地図には、千駄ヶ谷駅と信濃町駅の間の外苑側に、鉄道に沿って引込線が描かれており、現在も一部が残っている。

「陸軍省所轄地」と刻まれた境界石。外苑東通りに面した民音文化センターとの境に残されている。令和2年3月6日撮影

# 三四会新病院棟 募金協力者銘板の設置

新病院棟建設に際し、三四会会員の皆様には多大なご貢献をいただきました。

募金活動は実質的に、慶應義塾創立150年記念事業募金として2005年から開始され、引き続き2013年から医学部創立100年記念新病院棟建設事業募金として再開されました。150年記念事業募金については、三田・日吉キャンパス内に顕彰銘板が設置され、2013年からの募金活動については完成した新病院棟1号館に感謝の銘板が設置されました。

しかし全募金期間を通して多大なご貢献を賜りましたが、既に設置された信濃町の銘板に掲出されておられない会員の方々へ三四会が心からの感謝の意を表し、新たな銘板を作製して信濃町に顕彰することになりました。

塾、医学部からの承認の下にこの度ようやく三四会新病院棟募金協力者銘板が完成し、2号館（旧新棟）11階のホワイエ壁面に設置いたしました。11階のエレベーターを降りて右側に、美しいガラス板形式の銘板が設置されております。

信濃町にお越しの際はお立ち寄りいただければ幸いです。

## 慶應義塾医学部新聞　投稿規定

慶應義塾医学部新聞は、三四会員であればどなたでも投稿いただくことができます。

以下記事につきましてはいくつかの投稿規定を設けておりますので、ご確認ください。

**【教授・理事長就任】**
・本文文字量は８００字程度＋顔写真（JPEGデータなど）をお送りください。

**【受賞】**
・本文文字量は６００字程度＋顔写真（JPEGデータなど）をお送りください。

**【今月のサイエンス】**
・インパクトファクター10.0以上のジャーナルに掲載された論文であること。
・筆頭著者、または責任著者のどちらかに三四会員がいること。
・総説も受け付けますが、原著論文を優先して掲載します。
◎上記条件を満たした論文のうち数本をセレクトの上、こちらから解説文を依頼します。まずは医学部新聞編集室まで、論文PDFをお送りください。

お送りいただいた記事につきましては、順次掲載していきますが、紙面の都合により掲載号が遅くなることがあります。ご了承ください。

このほかにも投稿記事がある場合には、医学部新聞編集室までご連絡ください。

慶應医学部新聞編集室メールアドレス
sansikai-editor@mediproduce.com

## 三四会奨励賞の推薦について

Young Investigator Award, Keio University School of Medicine Alumni Association（Sanshikai）

**目的**　若手の三四会会員の研究を奨励し、実学としての慶應医学の発展を図る。

**対象**　1．次の各分野ですぐれた業績をあげた三四会正会員で三四会員として少なくとも１年は経過している者（本塾関連病院のみではなく、研究施設、他大学、地域等で業績をあげている三四会員も含む）
対象となる分野
イ、臨床医学　　ロ、基礎医学
2．満40歳以下

**推薦方法**
1．推薦者は、三四会役員、三四会評議員、慶應義塾大学医学部教授、慶應義塾大学関連病院会会員および他大学教授（三四会員）とします。
2．推薦者は、候補者の承諾を得た上で、所定の書式（三四会奨励賞推薦状）により候補者を推薦して下さい。
3．推薦締切りは2020年４月17日（金）必着、三四会事務局宛とします。
4．提出部数は、推薦状、被推薦者略歴、論文別刷（学術集会発表の場合はそれを証明するコピーと800字程度の抄録）、オリジナル１部とコピー10セットが必要です。
5．対象となる研究が共著論文の場合は共著者の承諾書（オリジナル１部とコピー10部）が必要となります。

※推薦状、略歴、論文、共著者の承諾書を順に組んで１部とし、コピーも同じ体裁に整えてください。
※推薦状のダウンロード、必要書類等は下記URLをご覧下さい。
URL：http://www.sanshikai.jp/award/shourei/index.html

**選考ならびに受賞**
三四会奨励賞選考委員会による厳正な選考の結果、約８名程度の受賞者を決定します。受賞者は2020年６月13日（土）に予定されている三四会定例評議員会で表彰され、賞状および副賞が授与されます。

## 三四会社会功労賞の推薦について

**目的**　地域社会、社会貢献を通じて顕著な功績により三四会の名誉を高めた三四会員を表彰し実学としての慶應医学の発展を図る。

**対象**　1．表彰目的に沿った優れた業績をあげた三四会正会員（本塾関連病院のみではなく、研究施設、他大学、地域で業績をあげている三四会員も含む）
2．年齢は問わない。

**推薦方法**
1．推薦者は、三四会役員、三四会評議員、慶應義塾大学医学部教授、慶應義塾大学関連病院会会員および他大学教授（三四会員）とします。
2．推薦者は、候補者の承諾を得た上で、所定の書式（三四会社会功労賞推薦状）により候補者を推薦してください。
3．締め切りは、2020年４月17日（金）必着、三四会事務局宛とします。
4．提出部数は、推薦状、被推薦者略歴、表彰目的に沿った業績目録、客観的に評価しうる資料等、オリジナル１部とコピー10セットが必要です。
5．以前推薦したが、受賞されなかった方の再推薦も可能です。

※推薦書のダウンロード、必要書類等は下記URLをご覧下さい。
URL: http://www.sanshikai.jp/award/kourousyo/index.html

**選考ならびに受賞**
三四会長を委員長とする三四会社会功労賞選考委員会による厳正な選考の結果、原則１名の受賞者を決定します。受賞者は2020年６月13日（土）に予定されている三四会定例評議員会で表彰され、賞状および副賞が授与されます。

## 鑑賞知恵

先日、バベルの塔と題された絵画を目にする機会を得た。バベルの塔は創世記に出てくる。その昔、人々は同じ言葉を用いていたが、ある時に神の住む天に届く塔を立てようと、その建設を始めた。これを見た神が、人間がそのような企てを起こせないように、お互いが違う言語を話し、相手を理解できないようにすることで塔を立てられなくしたという物語である。

近年、インターネット上に様々なサービスが登場し、日本中また世界中の人々が同じプラットフォーム上で自分の意見を表明し、見ず知らずの人たちと意見交換ができるようになった。違う言語で記述されていても自動的に翻訳されて、その内容を理解することまで可能である。その一方で自分と同じ意見・興味を持つ人たちの投稿や宣伝が優先して表示されるようになっているために、自分と似たような考え方や嗜好を持つ人間の小集団が数多く形成され、お互いに違うグループに属する人たちのことが全く理解できなかったり、更には攻撃しあうような現象も目にするようになった。現在進行中のコロナウイルスを巡る社会現象しかり、数年前のアメリカ大統領選しかりである。まるで天まで届く塔を積み上げようとして、結局バラバラにされてしまったバベルの塔の話にそっくりな状況にも見える。

好き嫌いは別にして、これまでの人類の歴史の中で大きく社会が進歩し、文化が花開いた時代は、多くの異質なものが混ざり合い、お互いが競い合う時代だったように思う。そして、いずれもが多様性を許容するのを正めた時に、没落が始まっているように見える。近年、国際化が進むと言われてから久しいが、同じ言葉を話すように自由に意見を交換し協力できるような、それでいてお互いの多様性を保持し続けまた許容できる仕組みを作るにはどうすればいいのかを、真剣に考えるべき時ではないかと思う。

（国際医療福祉大学　医学部病理学教授　潮見隆之　77回）